

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401848		
法人名	おおいし有限会社		
事業所名	グループホームおおいし		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙1161番地2		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年11月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期受診以外で、月1回又は2回の外出(外食・季節・展示展の見学)</li> <li>・今年度より、再開した島原半島グループホーム事業所連絡協議会主催の風船バレー大会参加</li> <li>・敷地内にあるデイサービスセンターの利用(デイサービスの利用状況にて利用可能)</li> <li>・年一度の一泊旅行(ホーム入居者・ご家族・ホーム職員・デイサービス職員参加)</li> <li>・年一度の、おおいし秋祭り(地域の方・ご家族・他のグループホーム参加)</li> </ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>雲仙市愛野町の自然豊かな環境の中、家庭的な雰囲気の中で、一日をゆったりと利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。職員の見守りがある中で、自由に散歩に出かける利用者もいる。職員の子供が遊びに来たり、町主催の文化祭に利用者が作品を出品したりと、利用者は地域の中で人や物に触れ合う事ができている。また、隣接しているデイサービスとの連携が取れており、利用者が気軽に足を運ぶ事が可能なため、気分転換になっている。職員が帰宅の際に、利用者が玄関手前まで見送りをされて、そっと寄り添う姿が、とても温かく微笑ましい光景だった。</p>
---

### サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 oo	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「想」を理念に掲げ、家族的で楽しくをモットーに支援を行っています	心の触れ合いを大切にしながら、利用者本位のサービスとなるように、利用者一人ひとりの事を「想って」温かい気持ちで支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内のデイサービス利用 秋祭り 地域の文化フェスティバル等に参加、展示時に交流を図れる場面を作っている。 地域の小中学生の福祉体験の受け入れ	散歩の途中に、地域の方と挨拶を積極的に交わしたり、野菜のお裾分けを頂くこともある。事業所主催の秋祭りには近隣の方が多数参加され、催し物を披露して頂いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会・秋祭りに地域の人に参加して頂き入居者の状況・状態を見られたり、質問に答えています。また、自由に施設訪問・見学を可能としています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の町内会長・老人会等に参加して頂き、認知症、介護保険、他の施設状況や利用等も行っています。	運営推進会議は、和やかな雰囲気の中で行われている。年に6回の開催を予定しているが、開催日について苦慮しているのが現状である。	会議が双方向的な会議となるように、それぞれの役割を担った参加者を増加させることで、より充実を図れることに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの研修会や講習会等に参加し交流を深めたり、情報収集や意見交換へ繋げたりしています。	市町村と協力関係が築けるように、リハビリの講習会等に参加することで、協力医院を増やす事になり、幅広い連携が取れるようになった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設研修を行う。また、開放的な空間作りをしています。	利用者の自由な暮らしを支援できるように外出傾向のある方には、止めるのではなく、その日その時の利用者の気持ちに寄り添い、その方に合った見守りの方法で外出の支援を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修を行う。また、接遇マナーに参加し入居者への対応に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては理解しているが、現状活用対象者なし。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を正確に行い、納得された上でサイン・印鑑を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話・手紙等にて報告。又運営推進委員会等で意見を聞いたり、面会に伺ったりして職員会議時に話し合ったりしてケアに取り入れています。	家族に手紙や訪問時に報告を行う際に、常に意見を伺い、些細な事でも気軽に言って頂けるように配慮を行っている。家族から利用者の昔のお話を聞くこともあり、プランに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や職員全員参加の食事会にて、代表者・管理者・職員等の意見交換の場を設けています。	全体の会議の中で職員の意見要望を聞くことに努めている。職員から本音の意見や気づきを聞く事ができ、サービス向上の為に、意見が採用される事もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善手当を支給の為の変更を2月・9月に取り入れた。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為に研修や資格取得に力を入れている。又研修内容についてのレポートを作成し、他の職員への周知・報告体制を整えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋祭りに他のグループホームを招待し交流を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居後本人の状態・状況を見極め声掛けしながら安心できるように心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に家族の要望を聞き入れプランに反映させている。新たな要望にも柔軟な姿勢でその都度プランへ取り入れている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の行動・状態・病状の観察を行い、その後家族と話し合い支援援助へと繋げる。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>趣味や特技分野を活かし職員と共に楽しむ</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の協力や支援を得ながら一時帰宅・外出を取り入れながら共に協力し合い支援援助へと繋げる。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの地域への見学・ドライブ・外食や馴染みの公共施設等への外出行事を行っています。</p>	<p>利用者が親しみが持てるものを把握し、日常生活の中でそっと支援している。家族の協力を頂き、法事にお連れしたり、お盆とお正月に帰られる利用者もいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う入居者同士は隣同士に席を置いたり、また、居室訪問への声掛け等を行ったり、その時、その時の状況に合わせて支援援助を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入院時には、ご家族の負担解消を行う(洗濯物・状態・状況の確認や説明等の聞き入れ)また、死亡後も一周忌や三回忌や法事等への出席を行い関係作りをしています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出の希望を、話し合い意向を汲み、取り入れている	日常の中で、無理強いをしない声かけや誘導により、利用者一人ひとりの把握に努めている。意思疎通が困難な方には、そっと寄り添い声かけを行い、気持ちを察して確認するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から聞き取りに努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態・状況に合わせて、洗濯干し・洗濯物の取り込み・洗濯物たたみ・食事の手伝い等の日常生活		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の会議にて全職員で話し合い意見を取り入れている	利用者、家族の意見を聞く努力をしながら、担当者も加わり作り上げている。アセスメントを含めモニタリングを職員全体で意見交換を行い、検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々のカルテに記載「午前・午後」気づき等は申し送り帳に記載し情報を共有している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出・外泊の希望等に柔軟に希望に添えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化展出展		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に通院出来るように医師と看護師等の連携を取っている	基本的に病院受診は職員が同行を行っており、利用者の馴染みのあるかかりつけ医との関係を密に結ぶように努めている。受診の際は、ご家族への報告も行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤日に報告・相談を行い、対応・支援・援助に繋げている。また、緊急時等には電話連絡を行い指示を伺い対応している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時洗濯物の交換・入院状況の把握等、又病院関係者との連携・情報交換や相談を行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針はありますが、該当はありません	方針の説明は行っているが、本人や家族のその時の気持ちの変化に対応できるよう、安心して最期を迎えられるように、意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急の講習に参加し講習終了書を持っている。新職員に対しても講習を受けていただきます		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会長への協力は行っているが、実践を交えた訓練には参加出来ない	消防署の協力を含め、年2回訓練を行っている。すぐ近くの老人ホームとの連携を取る為に、夜間を想定した訓練を月に2回程自主的にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導・居室からの洗濯物・汚染物等には、他の入居者に分からないようにしたり、また、接遇マナー講習へ参加を行う事で、声掛けの対応方法も変わってきている	失禁時にあからさまな対応にならない様に、汚物を居室のゴミ箱で目隠しをする等の配慮を徹底している。家庭的な雰囲気の中でも言葉掛けには注意を払い、年長者として敬う事を大切にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や行動の中から希望等をさりげなく聞きだしています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者が休みたい場所、過ごしたい場所で過ごされています。また、外へ出たい方は、自由に外へ出て過ごされています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各自で服装を選択をして頂いています。また、組み合わせ等は職員がアドバイスを行い援助しています		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立を使用しています。一人一人の総カロリーを計算した食事。職員も一緒になって食事する。各入居者に合わせ、刻み食・あら刻み等にも工夫している。その時の、入居者の状態で、手伝いを行って頂いています。	季節の食材を感じ取る事ができるように、利用者の状況に応じてお手伝いをして頂いている。食事の際は職員と利用者が一緒にテーブルを囲み楽しく食事できる雰囲気作りにも努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は全て(食事・水分)は記入を行っている。又、定期受診時にも持参し、医師へ報告しています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕と必ず食後は口腔ケアを行っています。又義歯の管理や仕上げ等も行ってます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の把握。日中は下着着用にて過ごして頂いています。	職員はトイレの介助に追われても、利用者が気持ちよく過ごせる事ができれば良いと思いいから、トイレで排泄できるように排泄チェック表を使用し、把握して支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄状況をチェックし、水分補給や運動を取り入れたりして、自力排便へ。また、医師・看護師へ相談しながら排便調整を行っています		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3～4回の入浴を支援しています。また、毎日入浴の準備はしている為個々に対応している。	利用者のその日の気分を確認して、入浴したい日や時間に合わせて入浴して頂いている。入浴の際は湯船にゆったりと浸かり、リラックスできるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はベットの休息やソファでの居眠り等、個々に対応している。又、夜間は眠たくなるまでテレビ視聴されたり、話し合い相手と、その時に応じて対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時には、処方説明書に赤で記しをして確認出来るようにしている。服薬の準備を行った職員は名前を記入しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花いけ、お茶、習字、手芸、レクリエーション		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・月1～2回の外出。また、職員と買い物への付き添い、年一回の旅行。家族にも協力を求めながら行っています	近隣の運動公園まで散歩にお連れしたり、買い物に同行して頂き、買い物のお手伝いをされる方もいる。年に数回は温泉(足湯も含む)にお連れして家族からも喜ばれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をされている入居者様は、家族と話し合って本人様の責任で行って頂いてます。また、施設管理の入居様は、買い物や外出時に職員管理のもと、支払をしたり、おつりを頂いたり動作を取り入れています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、自由に書いたり、掛けたりしています		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関には、入居者様の写真や展示物を展示したり、観葉植物や花をホールやトイレに置いたりしています	職員や利用者に加え、地域の方が手作りされた温かい小物や折り紙がリビングや廊下、居室の扉に飾られ、家庭的な優しい空間を作りだしている。木の温もりが伝わる床に、寛げるソファ、畳のスペースもあり居心地の良さを工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにたくさんの椅子を配置。また、畳の間に座ってテレビ視聴やお喋りが出来るようにしています		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用して頂いているタンス・衣装ケース・机・テレビ・物を持ち込んで頂いてます。	家族に利用者が身の回りの品で安らぎを得るものを持って来て頂けるように協力をお願いしている。利用者の思い出の品が持ち込まれ、その方らしい居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリー対応。車いす・歩行器段階に応じて訓練を行い、自力操作への援助を行っている		